Vol. 90 June. 1 st 2025



病院長 榊 雅之 Kinan Hospital

この度、阪越信雄前病院長ご退任の後を受け、令和7年4月1日より病院長に就任いたしました。人口減少および少子高齢化による地域医療の崩壊や自治体病院の経営困難などが現実化を帯びてきたこの時期に病院長を拝命致しまして、責務の重大さに身の引き締まる思いです。

当院は昭和20年の創立以来、地域住民に支えられながら、急性期を担う地域の中核病院として 良質な医療を提供してきました。したがって、今後も地域住民との信頼関係を如何に保ち続けるかと いうことが病院運営の鍵だと考えております。当院の基本理念は、「私たちは、患者さまに優しさを持 って接し、皆様から信頼される医療を目指します。」としております。この「優しさ」とは何でしょうか? 丁寧な言葉遣いや患者さんの我儘であっても許してあげることでしょうか。医療人として患者さんを治 療するために全力を尽くすのは当然のことですが、「優しさ」をもって接しと言われると、時に治療のた めには厳しさも必要なのでは?などと思ってしまいます。昔は、「我々は専門家であって、最も良い治 療を選択しているのだから、全て任せて下さい」という医療者側と、「わからないのでとにかく医療者に 頼るしかない」という患者側との信頼関係があったように思います。しかしながら、時代や価値観の変 化とともに、患者自身が自分の意思で治療方針を選択するようになってきました。このような時代に 必要なのは、患者さんが今何に困っているのか、何を希望しているのか、という患者目線に立った医 療だと考えています。急性期病院である当院においては、日々目も回るような忙しさの中、医療者自 身が心のゆとりを失い、ついつい「優しさ」の足りない言動や医療者側の都合を優先させてしまうことも あるでしょう。その時、今、患者さんの気持ちに寄り添えているだろうかということを、もう一度立ち止ま って考えてみませんか。そうすることで、互いの信頼関係がさらに深まり、時に治療上厳しい発言をし たとしても、聞き入れてもらえるのではないでしょうか。

当院は、急性期病院として高度な医療レベルを維持しており、職員の皆さんも本当に一生懸命頑張っておられます。今後は、「優しさ」をもって患者目線に立つ医療をさらに心掛けることで、地域住民との間に新しい信頼関係を築き、地域住民とともに歩む紀南病院となることを期待したいと思います。

最後に、私自身、今後も微力ながら全力で職責を全うして参りますので、職員および地域の皆様 方には、なお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



はじめまして、研修医1年目の河上格と申し ます。今年の4月から紀南病院で研修医をさ せていただいております。就職して数週間という こともあり、まだまだ未熟者ですが、指導医の先 生や他のスタッフの方々に助けていただきなが らなんとか研修を続けています。しつかり勉強し て1人前の医師になっていきたいと考えていま すので、至らぬところもあるかと思いますがよろ しくお願いいたします。

さて、私は三重県の出身で、和歌山県の高校に通っていました。大学は大阪の大学に進学しました。大学時代はアパートを 借りて一人暮らしをしていたのですが、これが想像していたよりも大変でした。慣れない都会での一人暮らしはわからないことば かりで、慣れない環境に精神をすり減らしていたと今になって思います。今年の4月から田辺に引っ越してきましたが、青春時 代を和歌山で過ごしたこともあり、研修医生活を和歌山県で始められることを嬉しく思います。田辺市は温暖な気候で過ごしや すく、住む人も優しい人ばかりなので、ここを研修先に選んでよかったと感じています。また、先輩の先生方に田辺市内の飲食 店へ連れていっていただく機会があるのですが、そこで提供される刺し身などがとてもおいしく、感動しました。他にも様々な魅 力があると思いますので、忙しい研修期間ではありますが、休日を利用して色々な所に行き、探していきたいと思います。

手を動かすのが好きなので、将来は外科を志望しています。外科医には手術だけでなく、内科的な知識や救急対応など、 幅広い知識、対応力が必要になると考えています。ですので、外科以外の診療科でもしっかりと研修を受け、初期研修以降に つながる土台を形成していきたいと思います。まだまだ分からないことだらけで、指導医の先生方やスタッフの方々にはご迷惑 をおかけすることもあるかと思いますが、日々一生懸命に頑張っていきますので今後ともよろしくお願いいたします。

臨床研修 修了式



令和6年度臨床研修修了式は医科4名歯科1名 の研修医が研修を修了し、無事この日を迎えること ができました。3階講堂において3月19日に修了証 授与式を執り行いました。研修医の先生方2年間お 疲れ様でした!また、どこかでお会いできることを楽 しみにしています。







看護部長就任の挨拶

2025年4月1日付で看護部長に就任いたしました栗林明夫と申します。微力ではございますが、皆様のお力添えをいただきながら、看護部の発展と患者様へのより良い看護の提供に尽力してまいります。

日本は少子高齢化が進行し、医療分野における人材確保はとても重要な課題となっています。当院においても看護職員の人材確保は、高齢化による患者数の増加や、複雑化する医療ニーズに対応するために大きな障壁となっています。今ここで活躍している看護職員の離職を防止し、長期的に活躍できる職場づくりを進めることや、新しい人材の確保に向けた取り組みが課題と考えています。



看護職員が長期的に働き続けられる職場環境を整えるためには、まず職場内のコミュニケーションを強化し、看護職員同士が支え合える風通しの良い環境を構築することが大切です。また、看護の現場は、患者様の命や生活に直接関わる尊い場です。その中で看護職員同士が看護について語り合い、尊重し合い、認め合う姿勢は、より良い看護を実現する上で欠かせない要素だと考えています。日々の看護業務で直面する困難や葛藤を語り合うことで、仲間からの励ましやアドバイスを受け、前向きに課題に取り組む力を養う看護部でありたいと思います。また、尊重し合うことで、多様な価値観や考え方を認め合い、チームとしての一体感を高め、職員間での相互尊重が患者様への最適なケアに繋げられるよう取り組んで参ります。

これからの看護部は、チーム医療の一員として、他職種との連携をさらに深め、地域医療の中核を担う存在としての役割を果たしていきたいと考えています。また、看護職員一人ひとりが専門職としての誇りを持ち、自己研鑽を続けることで、患者様に信頼される看護が提供できるよう努める所存です。何かと至らぬ点もあるかと存じますが、皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

桜の記念樹

令和7年3月31日、阪越前病院長より、桜の寄贈を受け植樹をしました 桜が大きくなり美しい花が咲くのが楽しみです 阪越先生、ありがとうございました







病院のまど

4月8日(火)に、51回生の入学式が行われ、31名(男子5名、女子26名)が新たに入学しました。入学式終了後には、講堂で在校生主催の新入生オリエンテーションが行われました。入学生は、チームに分かれ、在校生と会話を楽しみ、またビンゴゲームでは好きな数字を自分たちで考え、大いに盛り上がりました。新入生だけでなく在校生も景品を手にし、喜んでいました。



第149回がんサロン「ふれあい」開催のお知らせ

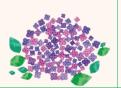
日時:2025年6月6日(金)14時~16時

場所: 2階第5会議室

テーマトーク:

「落ち込んだ時、

しんどい時にはどうしてる?」



編集後記

大阪万博2025が開催中です。大阪万博1970は日本中が沸いたそうですね。今回も大いに盛り上がってほしいです。ミャクミャクもなんだかかわいく見えてきました。デジタルチケットとか、完全キャッシュレスとか、ついていくのに必死ですがせっかくなので何度か行けたらなと思います。

N記

